

# 思わず突っ込んだ話

7L2WVR 久保木尊史

これらは実際にあった話。

1. ある牧場、そこは豚肉と、ポークハムやソーセージなどで有名。  
そのホームページを見たら、こう書かれている。  
「私たちは愛情を込めて豚を飼育しています」また「豚は私たちの家族同様の存在」。  
そうか、そうやって愛情をこめて育てているんだなあ。  
衛生管理から、与える餌や環境にも配慮する品質管理、さぞ美味しいお肉なんだろう。  
でも、  
家族同様な存在として、愛情を込めて育てて、、、う～ん、そうなの～？  
「愛情を込めて育てて家族同様の豚を、自分たちで殺して肉にして売っちゃうんだ～」  
と、画面に向かって突っ込んだ話。
2. 以前、生きたアサリをもらって、洗面器で塩水を作り、一晚砂を吐かせた。  
洗面器を覗いていると塩水の中で、アサリたちは元気に管や足を出している。  
見ているうちに段々、アサリたちが可愛くなって、可哀そうで料理することが出来なかった。  
貝たちはそのまま死んじゃった。  
「食わなくても結局死んじゃったじゃね～か！」と、自分で自分に突っ込んだ話。
3. 僕は仕事でレーザー光による刻印もやっている。  
品物の刻印場所を間違わないよう、段取りをして初品をセットしたら第三者確認をする。  
図面を見て、一番わかりやすい部分を①とし、そこがいつも同じ方向になるようにセットする。  
第三者確認の時、上司に「この①の部分が上になるようにセットする」と言ったら、  
「いや、それじゃ、①の加工が間違っていたら、刻印も間違った場所になっちゃうでしょ、  
それよりもこっちの②の箇所を目印にしたほうが良い。」と、言われた。  
でも、  
「①の箇所が間違っ加工されていたら、その時点で、その品物はお釈迦でしょ！」  
と、すかさず心の中で突っ込んだ話。
4. ある会社の、ある役員はいつも、「挨拶はキチっとしなさい」と社員たちに言う。  
「朝もキチっと、おはようございます！と挨拶しなさい」といつも言う。  
朝、「おはようございます！」と挨拶すると、その役員はちらっとこちらを見るが、  
ほとんど無視して通り過ぎていく。  
自分のお気に入りの社員にはニコニコ話しかけ、それ以外の社員には挨拶もしない。  
  
その役員は私たちに大切なことを背中で教えてくれる。  
「口うるさく「これをしろ！」と言う人ほど、自分はそれをしない。」

人生はいつも教えられることばかりです。

7L2WVR 久保木尊史